

(別添)

朝倉医師会病院 公的医療機関等2025プラン

初版 平成29年 9月 策定

改訂 令和2年 6月

改訂 令和3年 1月

<年次スケジュール>

【朝倉医師会病院の基本情報】

医療機関名：朝倉医師会病院

開設主体：一般社団法人 朝倉医師会

所在地：福岡県朝倉市来春422-1

許可病床数：275床

（病床の種別）一般病院

（病床機能別）一般病床

稼働病床数：275床

（病床の種別）一般病院

診療科目：25科

内科、循環器内科、外科、整形外科、泌尿器科、眼科、血管外科、呼吸器内科、
麻酔科、小児科、放射線科、リハビリテーション科、消化器内科、皮膚科、呼吸器外科、
乳腺外科、大腸・肛門科、神経内科、内視鏡外科、消化器外科、病理診断科、糖尿病・
内分泌内科、救急科、肝臓・胆嚢・膵臓外科、脳神経外科

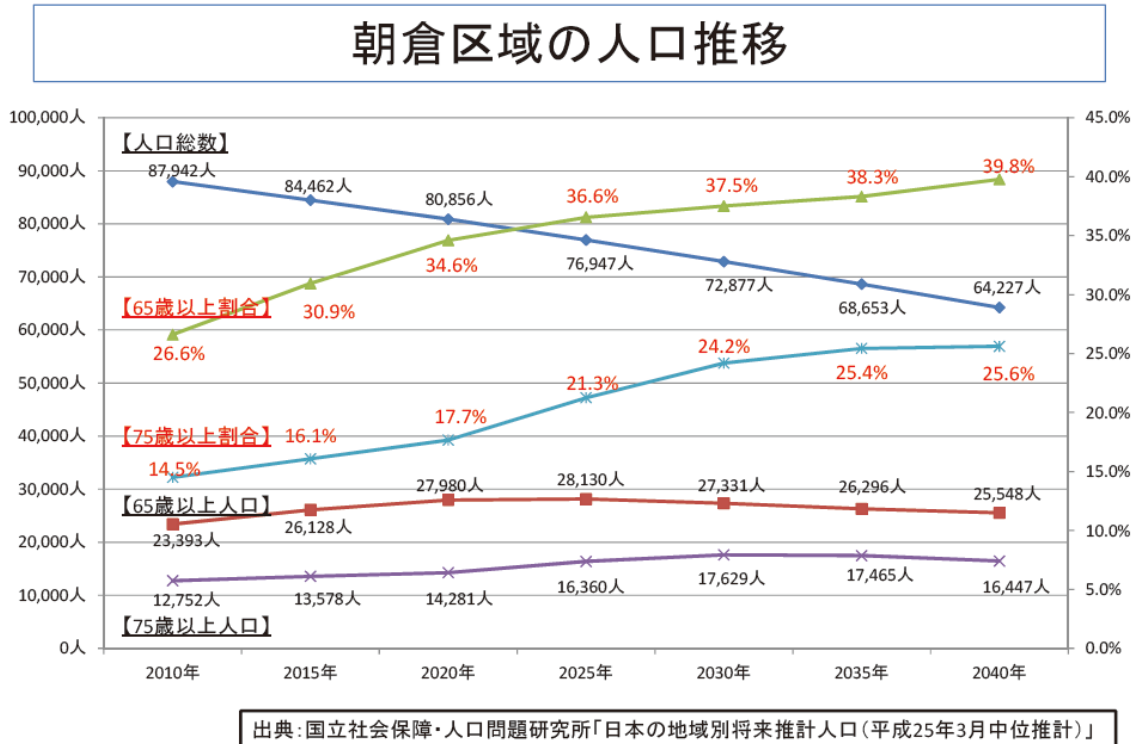
職員数：令和3年1月1日現在

	常勤	(非常勤)
・医師	29	(67)
・看護職員	218	(29)
・専門職	76	(1)
・事務職員	74	(25)
・看護助手	15	(2)

【1. 現状と課題】

1) 構想区域の現状

《朝倉市の人口推移》



・朝倉市の総人口はすでに減少局面に入っており、①65歳以上人口は平成32～37（2020～2025）年がピーク、②75歳以上人口は平成42（2030）年がピークと予想されている。

《疾病ごとの地域内での完結率、等》

① 入院医療の提供状況

急性期に対応する看護配置基準7対1及び10対1の病床での自己完結率は67.5%、久留米地区に16.4%、筑紫地区に9.9%流出している。

回復期に対する看護配置基準13対1及び15対1の病床では久留米地区に69.9%、筑紫地区に16.5%流出している。

回復期リハビリテーション病棟での自己完結率は64.9%、久留米地区に29.1%流出している。

慢性期に対応する療養病床での自己完結率は73.1%、久留米地区に18.8%流出している。

② 救急医療

救急での自己完結率は55.0%、久留米地区に27.0%、筑紫地区に12.1%流出している。

③ 脳血管疾患（脳卒中）

脳梗塞・TIAの自己完結率は66.6%、久留米地区に19.9%流出している。

くも膜下出血の自己完結率は29.2%、久留米地区に38.2%、筑紫地区に19.1%流出している。

薬物療法については脳卒中のtPA(血栓溶解療法)の症例無し。

④ 虚血性心疾患（急性心筋梗塞）

急性心筋梗塞の自己完結率は39.1%、久留米地区に45.5%、筑紫地区に15.5 %流出している。

⑤ 悪性腫瘍（がん）

悪性腫瘍の自己完結率は49.9%、久留米地区に29.5%、筑紫地区に12.7%流出している。

臓 器 別	自己完結率		アクセシビリティ (60分以内人口カバー率)
	入 院	主要手術	
胃がん	48.2%	52.4%	100.0%
大腸がん	64.0%	71.1%	100.0%
直腸がん	58.3%	100.0%	100.0%
肺がん	46.8%	0.0%	100.0%
乳がん	49.3%	48.0%	100.0%
肝臓がん	59.8%	0.0%	100.0%

化学療法「入院」での自己完結率は31.6%、久留米地区に47.4%、筑紫地区に11.0%流出している。

「外来」での自己完結率は29.4%、久留米地区に41.3%、筑紫地区に20.9%流出している。

⑥ 糖尿病

糖尿病での自己完結率は「入院」66.0%、久留米地区に20.9%が流出している。

「外来」での自己完結率は76.5%、久留米地区に12.1%流出している。

「人工透析の導入」のレセプト出現率は全国平均の半数程度と下回っている。

⑦ 精神疾患

「入院精神医療」での自己完結率は57.6%、久留米地区に20.0%流出している。

⑧ 小児医療・周産期医療

「小児の入院体制」は久留米地区に79.3%、筑紫地区20.8%流出している。

「乳幼児の入院体制」は久留米地区に100%流出している。

「小児の外来診療体制」のレセプト出現率は全国平均並み。

「小児夜間・休日診療体制」は全国平均を上回っている。

⑨ 在宅医療

「在宅リハビリテーションの提供」のレセプト出現比は全国平均を下回っている。

「往診」「緊急往診」「在宅支援」のレセプト出現比も全国平均を下回っている。

「訪問診療」のレセプト出現比は同一建物で全国平均並みとなっているが特定施設、居宅では全国平均を下回っている。

2) 構想区域の課題

《地域の医療需要の推移》

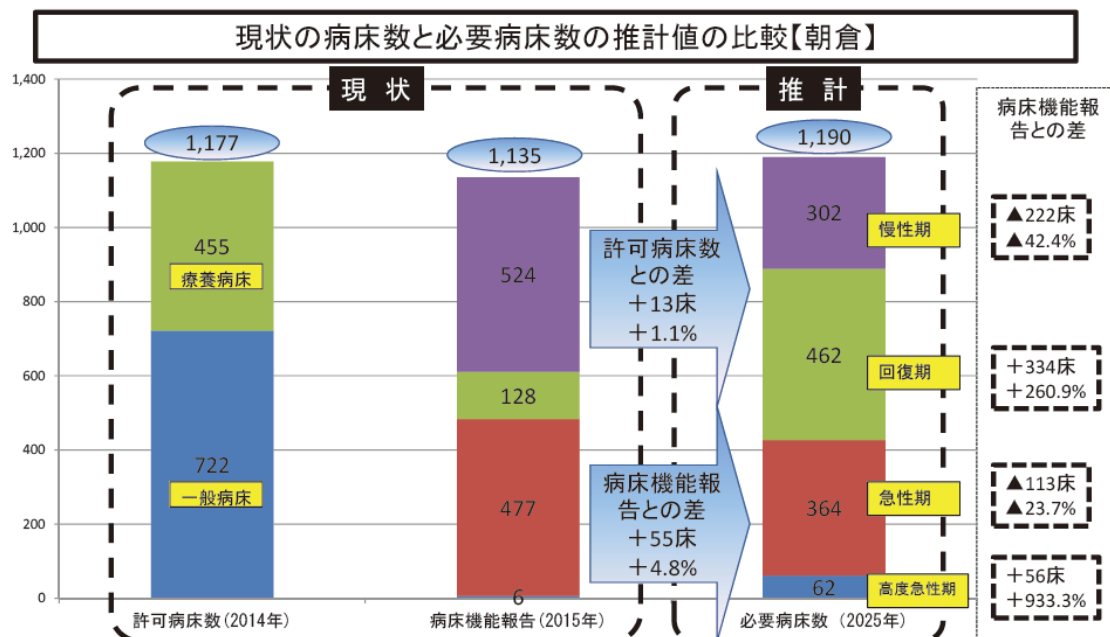
平成 37（2025）年の病床の機能別の医療需要と必要病床数

病床の機能	医療需要	必要病床数
高度急性期	47人・日	62床
急性期	284人・日	364床
回復期	416人・日	462床
慢性期	278人・日	302床
合 計	1,025人・日	1,190床

平成 37（2025）年の在宅医療等の医療需要

	医療需要
在宅医療等	1,399人・日

《4機能ごとの医療提供体制の特徴》



現状の総病床数に対し回復期（緑：128床）を担う病床数が極端に少ない。
平成27年（2015）の病床機能報告の病床数と平成37年（2025）の必要病床数を比較した場合、回復期病床が334床不足する予測される。
不足する回復期病床については、医療機関の自主的な取組を基本としつつ、急性期又は慢性期病床からの機能転換により確保を図っていく（地域医療介護総合確保基金による支援を実施）。

- ① 救急医療
圏域も広く、医療機関が西側に集中していることから、搬送に30分以上の時間を要している状況であり、救急医療体制の確保が課題である。
- ② 脳血管疾患（脳卒中）
急性期の脳卒中に対し自己完結率を高める必要がある。
- ③ 虚血性心疾患（急性心筋梗塞）
急性期の虚血性心疾患に対しては、近隣医療圏との連携を強化する。
- ④ 悪性腫瘍（がん）
外来化学療法自己完結率やがん診療連携パスの利用率を上げていく必要がある。
- ⑤ 糖尿病
朝倉区域内での自己完結率をより高める必要がある。
- ⑥ 精神疾患
朝倉区域内での自己完結率を高める必要がある。
- ⑦ 小児医療・周産期医療、
朝倉区域内での「外来」から「入院」までの自己完結率を高める必要がある。
- ⑧ 在宅医療
全般的に充実を図る取組（人材確保を含む。）を進めていく必要がある。
朝倉区域の実情に応じた在宅医療等の提供体制の構築を進める（事業の実施に基金を活用）。
今後増加が見込まれる認知症高齢者について、関係者、関係機関の連携等適切に対応していく。

3) 自施設の現状

①理念：最新の医療を提供し、住民に愛され、信頼される病院を目指します。

②基本方針

- ・医師会会員と密に連携し、一貫した医療をめざします。
- ・患者さんと家族に親切に接し、安心感を与え信頼される医療をめざします。
- ・診療体制を充実させ、急性期高度医療、救急医療を実践します。
- ・一人一人の患者さんを全職員が協力連携して診るチーム医療を行います。
- ・地域住民の健康と疾病予防に配慮します。
- ・医学、医療技術の研修、研鑽に努めます。
- ・効率的で無駄のない病院経営をめざします。

③診療実績

- ・一般病床（急性期 7：1）198床・HCU 6床・地域包括病床 51床・緩和ケア病棟 20床

④病床平均稼働率：69.1% （令和2年実績）

⑤平均在院日数：17.0日 （令和2年実績）

⑥職員数（令和3年1月1日現在）

- ・医師 29（67）・看護職員 218（29）・専門職 76（1）・事務職員 74（25）
- ・看護助手 15（2）

⑦特徴

- ・急性期（7対1）を中心に救急医療の実践に努め、在宅復帰を目的とした回復期（地域包括病棟）の活用、がん診療（終末期医療：緩和ケア病棟）を担っている。

⑧政策医療

- ・5疾病のうち3疾病（がん、脳卒中、糖尿病）を行っている。

・5事業のうち4事業（救急医療、災害時における医療、へき地医療、小児救急医療を含む小児医療）を行っている。

⑨在宅部門

・法人内に介護老人保健施設、介護支援センター（ケアプラン、訪問看護ステーション、ヘルパーステーション）を有し平成27年（2015年）からは在宅医療連携拠点として地域の在宅医療相談窓口を設置。安心した在宅医療の提供を行っている。

4) 自施設の課題

①高度急性期、急性期医療を担う救急体制の確立

②がん患者を入院から退院（診断、手術療法、化学療法、緩和ケア等）、外来化学療法まで診療できる体制整備

③小児の入院体制強化

④他施設との連携強化で在宅医療を推進する

【2. 今後の方針】 ※ 1. 1)～4)を踏まえた、具体的な方針について記載

1) 地域において今後担うべき役割

地域医療支援病院として朝倉市医療圏での急性期医療、特に脳外科（脳卒中）、整形外科（骨折）の救急医療体制を強化。

また、災害拠点病院として被災者の受け入れ、地域がん診療病院として地域住民のがん予防、早期発見出来る健診センターと診断から終末期医療まで行える地域に密着した医療体制作り。

救急医療、災害支援医療、悪性腫瘍（がん）、小児の入院体制強化を構想区域内で自己完結率を高める役割がある。

2) 今後持つべき病床機能

救急医療の自己完結率を高め、入院体制（7対1）の維持、回復期（地域包括ケア病棟）の活用と在宅医療の連携推進。

地域がん診療病院として終末期医療の充実。

3) その他見直すべき点

- ・ 標榜していない診療科へのコンサルテーション等
- ・ 休日急患センターの担当医師招聘等

【3. 具体的な計画】 ※ 2. 1)～3)を踏まえた具体的な計画について記載

1) 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (令和3年1月)		将来 (2025年度)
高度急性期	6	→	6
急性期	198		146
回復期	51		52
慢性期	20		20
(合計)	275		224

＜年次スケジュール＞

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2019～ 2020年度	【病床機能変更】 ・急性期病棟 36床減 ・地域包括ケア病棟 11床増 【病床数変更】 ・急性期病棟 52床減 ・地域包括ケア病棟 1床増	2020年8月1日より実施 2020年2月1日より実施	<div>第7期 介護保険 事業計画</div> <div>第7次医療計画</div>
2021～ 2022年度			<div>第8期 介護保険 事業計画</div>
2023～ 2024年度	【病床機能の再検討】		
2025年度			

2) 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

3) その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 新入院数 月 380 名
- ・ 一日平均入院患者数 204 名
- ・ 病床稼働率 91.0%
- ・ 入院単価 47,000 円
- ・ 平均在院日数 14 日
- ・ 看護必要度 31%以上
- ・ 救急搬入数 月 120 件
- ・ 手術件数 月 120 件
- ・ 外来一日平均患者数 150 名
- ・ 外来平均単価 18,800 円

経営に関する項目（令和3年度）*

- ・ 人件費率：57.4%（委託含：64.0%）
- ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：0.38%

その他：なし

【4. その他】

地域医療支援病院：広範囲な地域特性と山間部（へき地）など医療提供体制の偏りがみられるため朝倉区域内で自己完結できる診療体制の整備が必要である。

災害拠点病院：今回の豪雨災害の経験を教訓とし、災害発生時、被災者を速やかに受け入れる体制を強化する。

地域がん診療病院：正確ながん診断を行い、標準的な手術や化学療法を提供することにより朝倉区域内でのがん診療の均てん化を図る。

がん患者を入院から退院（診断、手術療法、化学療法、緩和ケア等）、外来化学療法まで診療できる体制整備、強化。

2次救急指定病院：「断らない救急体制」をより強化する。

《改訂内容》

	改訂前	改訂後
P. 2	職員数：令和2年6月1日現在 常勤 (非常勤) ・ 医師 31 (67) ・ 看護職員 237 (29) ・ 専門職 83 (1) ・ 事務職員 76 (25) ・ 看護助手 13 (2)	職員数：令和3年1月1日現在 常勤 (非常勤) ・ 医師 29 (67) ・ 看護職員 218 (29) ・ 専門職 76 (1) ・ 事務職員 74 (25) ・ 看護助手 15 (2)
P. 7	④病床平均稼働率：77.5% (令和元年実績)	④病床平均稼働率：69.1% (令和2年実績)
	⑤平均在院日数：17.2日 (令和元年実績)	⑤平均在院日数：17.0日 (令和2年実績)
	⑥職員数 (令和2年6月1日現在)	⑥職員数 (令和3年1月1日現在)
P. 8	【3. 具体的な計画】 1) 4機能ごとの病床のあり方について <今後の方針> 現在 (平成2年度病床機能報告) 将来 (2025年度) ※急性期 198床 回復期 51床 合計 255床	【3. 具体的な計画】 1) 4機能ごとの病床のあり方について <今後の方針> 現在 (令和3年1月1日現在) 将来 (2025年度) ※急性期 146床 回復期 52床 合計 224床
P. 9	<年次スケジュール> 2019～2020年度	<年次スケジュール> 2019年度～2020年度 【病床数変更】 ・ 急性期病棟 52床減 ・ 地域包括ケア病棟 1床増 2021年2月1日より実施
P. 10	3) <u>その他の数値目標について</u> <u>医療提供に関する項目</u> ・ 新入院数 月 400 名 ・ 一日平均入院患者数 240 名 ・ 病床稼働率 86.5% ・ 入院単価 44,000 円 ・ 平均在院日数 15 日 ・ 看護必要度 31%以上 ・ 救急搬入数 月 120 件 ・ 手術件数 月 120 件 ・ 外来一日平均患者数 150 名 ・ 外来平均単価 18,800 円	3) <u>その他の数値目標について</u> <u>医療提供に関する項目</u> ・ 新入院数 月 380 名 ・ 一日平均入院患者数 204 名 ・ 病床稼働率 91.0% ・ 入院単価 47,000 円 ・ 平均在院日数 14 日 ・ 看護必要度 31%以上 ・ 救急搬入数 月 120 件 ・ 手術件数 月 120 件 ・ 外来一日平均患者数 150 名 ・ 外来平均単価 18,800 円
P. 10	経経営に関する項目 (令和2年度)	経営に関する項目 (令和3年度)